氏　　名	石岡　洋子
授与した学位	博　士
専攻分野の名称	保健学
学位授与番号	博甲第６７４０号
学位授与の日付	令和４年９月２２日
学位授与の要件	保健学研究科　保健学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文の題目	Gestational Outcomes and Birth Weight in Japanese Women at the Upper and Lower limits of the Normal BMI range （ふつう体重のやせ傾向と肥満傾向妊婦の妊娠経過と出生時体重）
論文審査委員	教授　森本美智子　　教授　小野智美　　教授　森　恵子

学位論文内容の要旨

非妊時にふつう体重であれば，やせ・肥満傾向でも同様に対応すべきかは明らかではない。 今回，Low risk 妊婦 2038 名をやせ群（非妊時 BMI＜18.5）と肥満群（BMI≧25），さらに， ふつう体重妊婦をやせ傾向群（18.5≦BMI＜21），ふつう群（21≦BMI＜23.0），肥満傾向群 （23≦BMI＜25）に分け，妊娠中の血圧や出生時体重を検討した。 初・中・後期の血圧は，肥満傾向群は肥満群と同様に，やせ群，やせ傾向群と比較して有 意に高値であった。出生時体重は，やせ傾向群はやせ群と同様に，肥満傾向群，肥満群に比 較して有意に低値であった（ｐ＜0.01）。HFD 児は，肥満傾向群が肥満群と同様に他群より， また，LFD 児は，やせ群が他群より有意に高率であった。やせ傾向群は妊娠中の体重増加 量が 7 kg未満で LFD 児が有意に高率であった（ｐ＜0.01）。本結果から，ふつう体重妊婦でも非妊時 BMI により差別化した対応が必要であると考えられる。

論文審査結果の要旨

非妊時体重が低出生体重児出産・巨大児出産のリスクを高めることが知られている．本論文は，BMI判定基準に独自にやせ傾向（18.5 ≦BMI＜21）・肥満傾向（23.0 ≦BMI＜25）を設けて，ふつうを3群に区分し，Outcomes（妊娠経過中の血圧値，児の出生体重等）に違いがあるのかを検討し，以下の成果を得ている．

1）やせ傾向の群では，やせ群と同様に児の出生体重は他の群に比べて有意に低かったが，低出生体重児の割合には違いを認めなかった．

2）肥満傾向の群では，妊娠中の血圧はやせ傾向群に比べて有意に高かったが，ふつう群と肥満傾向群に統計的に差はなかった．しかし，巨大児の割合は肥満群と同様に他の群に比べて有意に高いことが示された．

本研究でのBMIの区分については，論拠・妥当性に課題がある．また論文の記述内容についても，さらに精度を高める必要がある．しかし，3施設の2038名のデータを解析し，妊婦に対してのBMIの区分に対して新たな提言をしようとした意欲的な研究論文である．本論文以外に，業績（論文）が欲しいところであるが，今後に期待したい．審査員は，論文内容およびこれに関連する事項について試問を行った結果から，合格とすることを適当と認める．